

令和7年度（2025年度）経済環境常任委員会管外視察の概要

- 1 視察日 令和7年（2025年）11月6日（木）～7日（金）
- 2 視察者 経済環境常任委員会（7名）
高島和男（委員長）、南部隼平（副委員長）、岩中伸司、
松田三郎、高木健次、吉田孝平、高井千歳

3 視察の概要

（1）MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島【広島市南区】

MAZDA Zoom-Zoomスタジアム
広島は、広島市が所有し、株式会社広島東洋カープが指定管理者として運営する野球場である。老朽化した旧広島市民球場に代わる施設として、広島市が保有していた土地に建設され、平成21年（2009年）春に完成し、同年から広島東洋カープの本拠地として使用されている。



新球場の建設費は、広島県・広島市・地元経済界の三者が負担する形で整備され、開場後は周辺に商業施設が立地し、地域のにぎわい創出にも寄与している。

今回の視察では、官民が連携してスポーツ施設を整備・運営する取組みの参考とするため、球場の設備や管理運営等について調査を行った。

広島市担当からは、旧広島市民球場が担ってきた高次スポーツ機能の維持・強化を図るという役割を継承し、広島の文化・社会的な中枢拠点機能の充実・強化に大きく寄与することを目的として、新球場を建設した経緯や小さな子供から障害者、高齢者など誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した球場であること、また、JR広島駅周辺の浸水対策として、球場グラウンド地下に整備された雨水貯留池などについて説明があった。



（２）エディオンピースウイング広島【広島市中区】

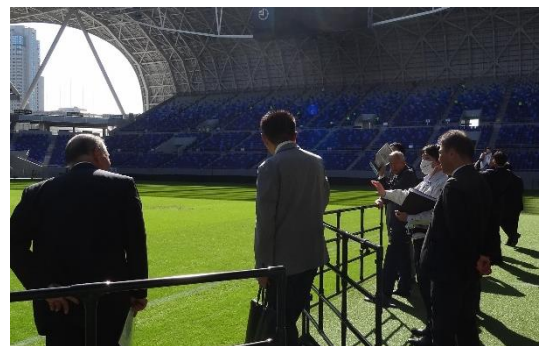
エディオンピースウイング広島は、広島市中央公園内に整備された全席屋根付きのスタジアムで、広島市が事業主体となり、令和６年（２０２４年）２月に開業した。

運営は、サンフレッチェ広島の運営会社が指定管理者として担っている。

「街なかサッカースタジアム」として中心部の活性化を目指し、隣接広場ににぎわい施設を整備するなど、日常的に多世代が集える空間づくりを進めている。また、キッズルームの設置など、子供連れでも安心して観戦できる環境が整えられている。

今回の視察では、官民連携によるスポーツ施設整備の参考とするため、設備や運営管理等について調査を行った。

広島市担当からは、全国でも珍しい都心の中央公園に「街なかサッカースタジアム」が整備された経緯や原爆ドームがある平和記念公園など観光施設と隣接しているため、都心のにぎわい創出の相乗効果、回遊性向上に寄与していることなどの説明があった。



（３）公益財団法人ひろしま産業振興機構【広島市中区】

公益財団法人ひろしま産業振興機構は、広島県内の中小企業・ベンチャー企業の新規ビジネス等に関する様々な取組みを総合的にバックアップし、産学官連携による新技術・新製品開発や創業・新事業展開、経営革新、経営基盤の強化、国際ビジネスの支援などを実施している公益財団法人である。



今回の視察では、機構内のひろしま創業サポートセンターにおける創業に関する様々な相談への対応や、課題解決のための専門家による助言等の実施体制について説明を受けるとともに、国際ビジネス支援センターにおける広島県内企業の海外展開や国際ビジネス活動の支援について調査を行った。

同機構からは、県内で１年以内に創業予定者及び創業後１年以内の創業者を支援する３本の矢①窓口相談、②創業サポーター、③創業セミナーの実施内容や現行の体制からコロナ禍は相談件数が減少したが、例年、一定数の相談実績があることなどの説明があった。

また、同機構の国際ビジネス支援センターからは、令和6年10月に「海外ビジネスパートナー制度」を創設し、4名のパートナーが企業からの相談対応や専門セミナーの開催、商社等とのネットワーク構築、商談設定を行っていることやアジアを中心に世界8都市に海外ビジネスサポーターを配置し、現地情報の提供、制度説明、取引先紹介を行っていることなどの説明があった。